



浦島伝説

全力は自分も変える

体育祭の練習が本格的に始まったかと思ったら、明日はもう「予行」です。慌ただしさを感じながらも、生徒たちは集中して練習に取り組んでいます。1・2年生男子は、体育館練習で早くも“7段ピラミッド”を完成させました（写真左：完成形は当日のお楽しみということで、途中の様子です）。1・2年生女子は、初めての合同練習で互いの練習の成果を披露しました。2年生の迫力ある踊りに、1年生は圧倒されたことでしょう（写真中央）。3年生は、最上級生としての自覚と最後の体育祭に賭ける熱い思いがひしひしと伝わってくる踊りで、早くも鳥肌が立つくらい完成度のパフォーマンスでした（写真右）。



さて、体育祭は普段の学校生活では体験できないことを“学ぶ”チャンスでもあります。それは、体育祭当日よりも、当日を迎えるまでの過程にたくさんあります。「朝眠いけど、ガマンして朝練に行く」「長編が思うように跳べずにイライラするけど、あきらめずにみんなとがんばる」「組立体操で崩れそうになるけど、歯を食いしばって友だちを支える」「ダンスで思いっきり自分を表現するのは恥ずかしいけど、しっかり身体全体を使って笑顔で踊る」「走るのが遅くて迷惑をかけるかもしれないけど、全力で最後まで走り切る」など、いろいろな悩みや葛藤を乗り越えていくところに、人間としての成長があるのです。それら乗り越えて迎えた当日、演技や競技を終えて拍手喝采を浴びたときに、本当の喜びや感動を味わうことができるのです。苦しい練習を乗り越えた自信が芽生え、新しい自分を発見することもできるでしょう。「OVER COME MYSELF ～全力が未来を変える～」、全力は未来だけでなく、自分も変えることができるのです。

負ける練習

柔道の基本は受け身
受け身とは投げ飛ばされる練習
人の前でたたきつけられる練習
人の前でころぶ練習
人の前で負ける練習です。
つまり、人の前で失敗をしたり
恥をさらす練習です。
自分のカッコの悪さを
多くの人前で
ぶざまにさらけ出す練習
それが受け身です。
長い人生には
カッコよく勝つことよりも
ぶざまに負けたり
だらしくなく恥をさらすことの方が
はるかに多いからです。
そして
負け方や受け身の
本当に身に付いた人間が
人の世の悲しみや苦しみに耐えて
他人の胸の痛みを
心の底から理解できる
優しく温かい人間になれるんです。

人生というのは、自分の思いどおりにならないことの方が多いのです。自分の思いどおりにならないということは、ことばを変えれば「負け」です。子どもの頃から、負ける練習、失敗の練習、恥をさらす練習をたっぷりさせておくことです。そして、負けに強い人間、失敗に強い人間、恥をさらすことを恐れない人間に育ててやるのが、子どもの一生を通じて幸せではないかと思うのです。日常生活の中で、恥ずかしいこと、嫌なこと、骨の折れることは、みんなだれかが代行してしまうから、子ども自身に苦しさに絶える心の根ができないんです。じっとガマンして、あえて子どもに恥の体験をさせる、それが負ける練習です。

※『にんげんだもの』（相田みつを）から引用